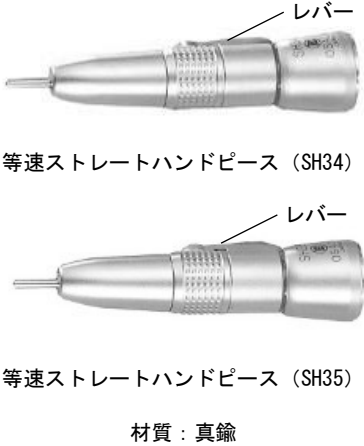


機械器具 61 ストレート・ギアードアングルハンドピース JMDN コード 70692000
管理医療機器 特定保守管理医療機器
販売名 オサダHL-Cハンドピース
** (SH34 / SH35)

**【形状・構造及び原理等】
1. 形状



2. 仕様

機種	最高入力 回転速度	最高出力 回転速度	ライト	適合モータ
SH34	40,000 min ⁻¹ (40,000 回転/分)	40,000 min ⁻¹ (40,000 回転/分)	無	GSL、G1、HL-C
SH35			有	モータ

3. 使用環境条件

下記条件にて使用すること。(但し、結露しないこと)

周囲温度	10—40 ℃
相対湿度	30—75 %
気圧	700—1060 hPa

【使用目的又は効果】

駆動源からの回転を等速又は変速して、歯又は義歯等を切削又は研磨する歯科用バー、リーマ等に伝達すること。

【使用方法等】

機器の詳細な使用方法は、使用前に必ず取扱説明書を参照すること。

1. 使用方法

- 1) 使用前の準備
 - ①ハンドピースとモータの接続
 - ②バーの取付け
- 2) 使用前の点検
 - ①バーの接続（指で引っ張り抜けないこと）を確認
 - ②回転中の振動、異音、温度確認
- 3) 操作
 - ①回転のオン・オフ
- 4) 使用後の処理
 - ①バーの取外し
 - ②ハンドピースとモータの取外し
 - ③清掃・保守

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意
 - 1) 使用前にストレートハンドピースとモータが確実に取り付けられているか確認すること。
またストレートハンドピースに取り付けたバーを引っ張り抜けないことを確認すること。
 - 2) バーの柄はφ2.35 (ISO 規格) のものを使用すること。
 - 3) 規格外、変形、摩耗しているバー、曲がっているバー、汚れているバー、薬液等が付着したバーは使用しないこと。
 - 4) バーを挿入し、レバーを戻す(チャックを締める)際は、指を添えて戻すこと。指を添えない場合、又バーを挿入していない場合は、レバーが勢いよく戻りストッパーピンが破損する恐れがある。
 - 5) バーが回転している状態で口腔内への出し入れをしないこと。患者がケガをする恐れがある。
 - 6) バーの着脱は回転が停止している状態で行うこと。内部部品が破損する恐れ、また回転をしているバーにより、ケガをする恐れがある。
 - 7) 保守オイルで注油した後は必ず強制オイル切りを行い、ハンドピース内に余分なオイルが残らないようにすること。余分なオイルが残っていると発熱の原因となる。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件
下記条件にて保管すること。(但し、結露しないこと)
滅菌バッグに入れて滅菌をした後は、そのまま保管すること。

周囲温度	-10—60 ℃
相対湿度	10—90 %
気圧	700—1060 hPa

直射日光に長時間さらさないこと。

2. 耐用期間

製造の日から、正規の使用方法、保守点検を行った場合に限り 7 年間。(自己認証による)

【保守・点検に係わる事項】

1. 清掃・消毒・滅菌

○：適用可 ×：適用不可

	清掃	消毒	滅菌	
	中性洗剤 水拭き	アルコール 清拭	高圧蒸気 滅菌	135℃ 以下 乾燥工程
ストレート ハンドピース	○	○	○	○

使用後直ちに保守オイルで十分に注油・洗浄を行い、滅菌すること。

※下記のことは行わないこと。

錆、変色、故障の原因になる。

- ①薬液への浸漬
- ②酸性水・アルカリ水での洗浄・浸漬。
- ③オートクレープでの乾燥工程(135℃を超える場合)。
- ④乾熱滅菌、高圧アルコール蒸気滅菌。

※ (ウォッシュャブルマーク) が付いているハンドピースに関しては、取扱説明書の注意事項を参照すること。

取扱説明書を必ずご参照下さい。

2. 保守・点検

使用者による保守点検事項

長期保管した場合は、使用前に十分点検を行ってから使用すること。

点検・保守 頻度	点検・保守内容（概略）
使用前	ハンドピースとモータの接続確認
	バーは、緩み無く取付けてあること
	回転中の異音、振動、温度確認
使用后	ハンドピースに付着した血液・薬液及び切削粉の除去・水洗
	ハンドピースの注油・洗浄
	馴らし回転及びオイル切り
	ハンドピースの滅菌

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者/製造業者/設計業者

: 長田電機工業株式会社

TEL(本社) : 03-3492-7651

ホームページ : <http://osada-group.jp/>

取扱説明書を必ずご参照下さい。